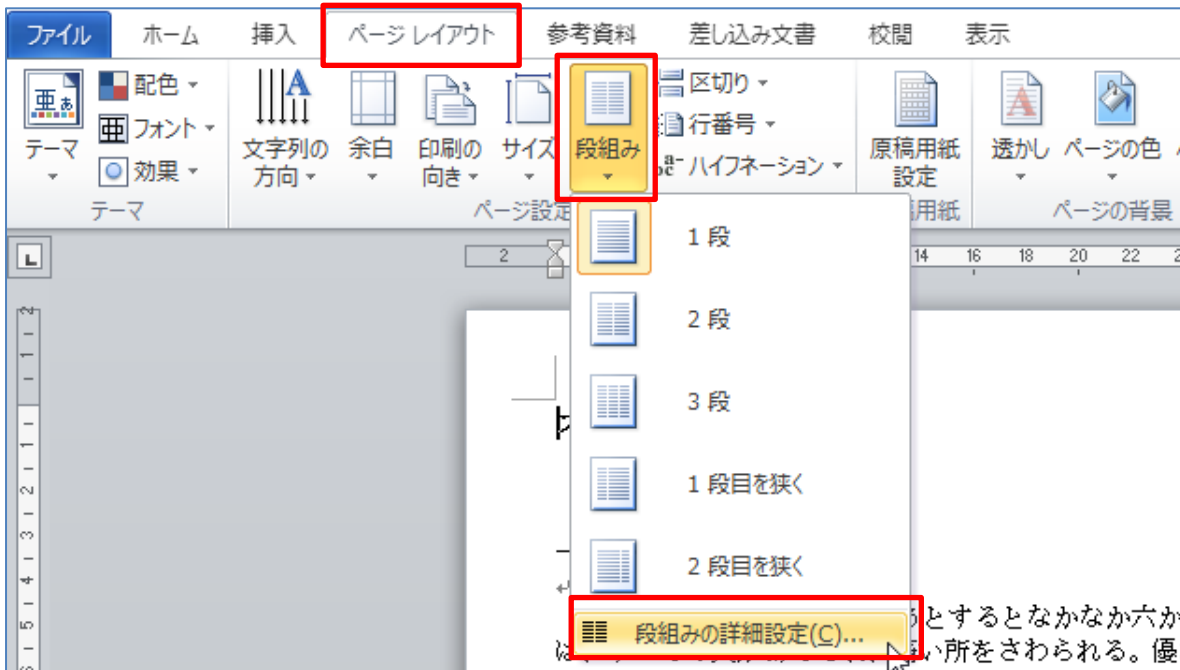


## ミニ新聞作成 段組みを使おう

H29.12.21 IT ふたば 水島講座

重点操作・・・段組み 画像の挿入

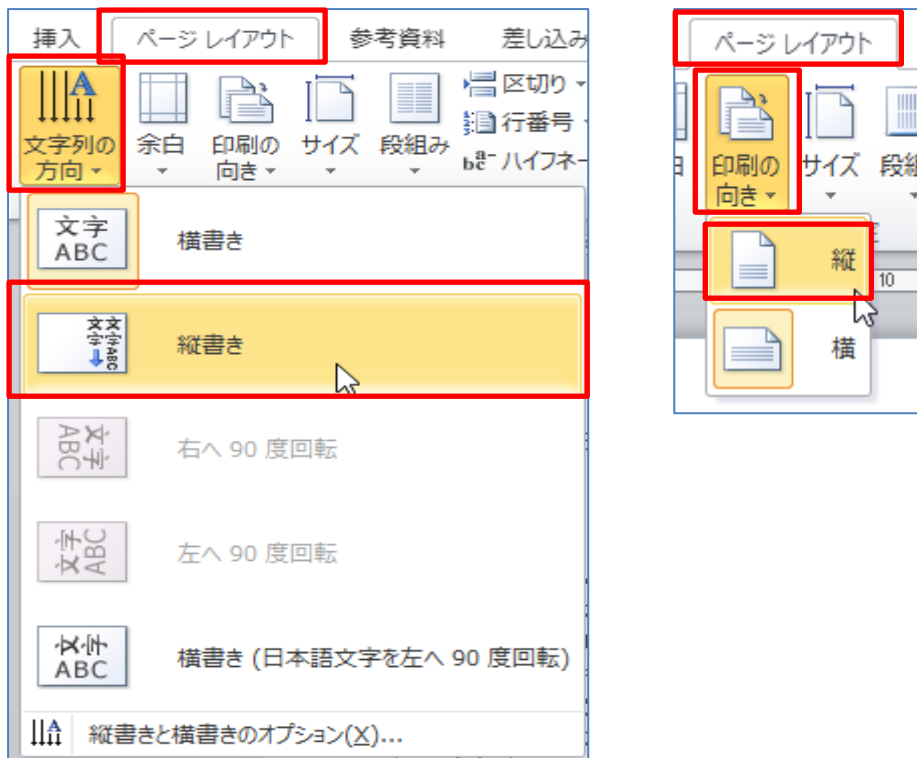
1. ワードを立ち上げる
2. 文章を入力する（「171221-sozai」フォルダーの中の「spark-teradatorahiko」を開く）  
※段落を意識して、構成すること
3. 「ページレイアウト」タブをクリック→「段組み」▼をクリック→  
「段組みの詳細設定」クリック



4. 「段組み」ウィンドウが開く→  
“段数(N)”を「4」にする（↑↓の上下の▲▼をクリックすると数値が変更される。直接入力でも良い）  
→「OK」クリック



5. 「ページレイアウト」タブ→「文字列の方向」▼をクリック→「縦書き」をクリック→  
「印刷の向き」▼をクリック→「縦」をクリック

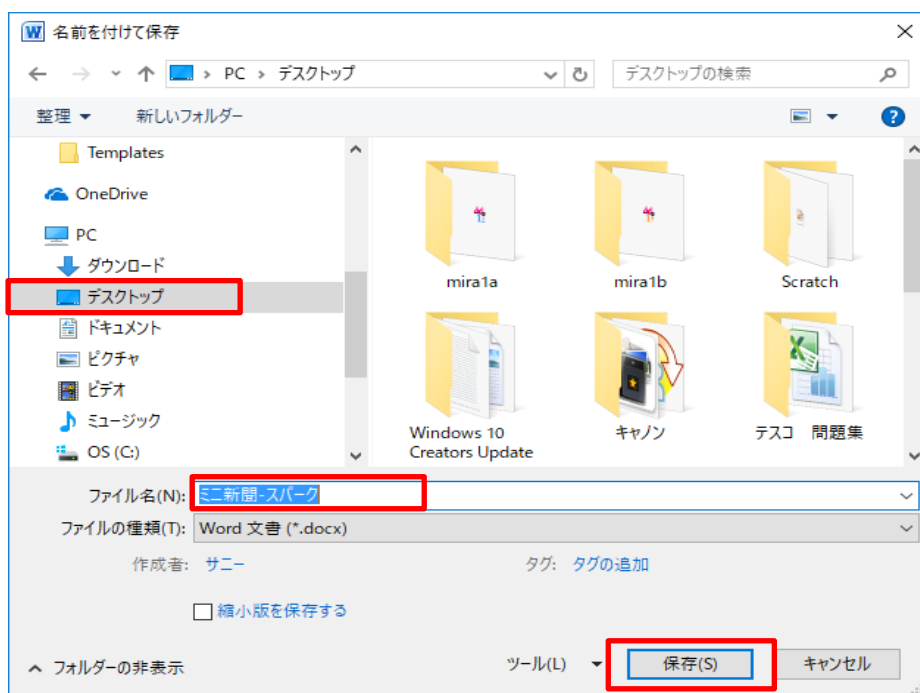


6. 名前を付けて保存

「ファイル」タブ→「名前を付けて保存」クリック  
表示されたウィンドウで、以下のように設定する

保存場所「デスクトップ」      ファイル名「ミニ新聞-スパーク」

→「保存」クリック



## 7. 画像を挿入する

①画像の挿入場所を指定する（画像の“文字列の折り返し”を「行内」規定のまま使う場合）  
題字“スパーク”の文字の下をクリック

②画像を選択、挿入する

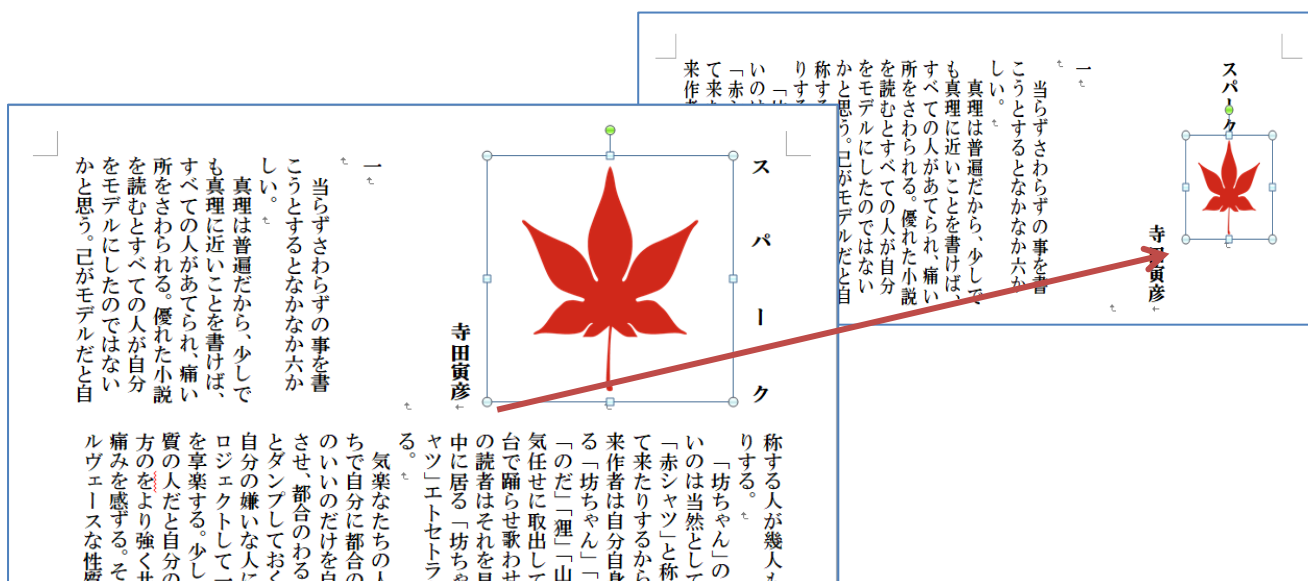
「挿入」タブをクリック→「画像（図）」をクリック→“図の挿入”ウィンドウが表示される→  
「171221-sozai」フォルダーの中の「momiji-ky」をクリック→「挿入」ボタンをクリック→  
画像が挿入される



③画像の縮小（拡大）

画像の左下隅のハンドル（○とか口とか PC によって異なる）を右斜め上にドラッグ→  
題字の下に収まるように縮小する

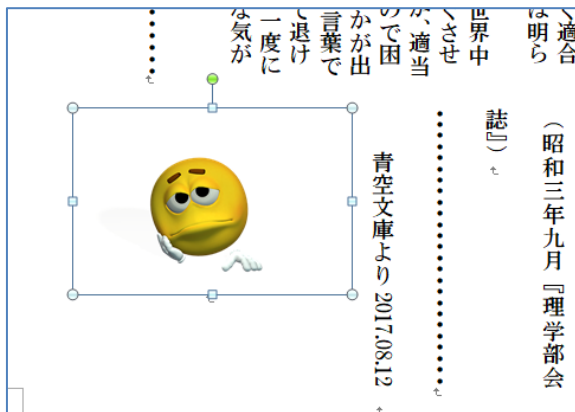
※斜め左下にドラッグすると画像が拡大される。ただし、どのハンドルを使用するかは場合で異なる



#### ④2枚目の画像を挿入する

(複数枚の画像の場合、文字列の折り返しの選択によって、③で複数枚同時に挿入で良い)  
一応、文章の最後をクリック(どこでも良いが、空白位置の方が編集しやすい) →  
「挿入」タブをクリック → 「画像(図)」をクリック → “図の挿入” ウィンドウが表示される →

「171221-sozai」フォルダーの中の「emotionguy.png」をクリック →  
「挿入」ボタンをクリック → 画像が挿入される




#### ⑤「文字列の折り返し」を設定する

画像が選択されているのを確認する

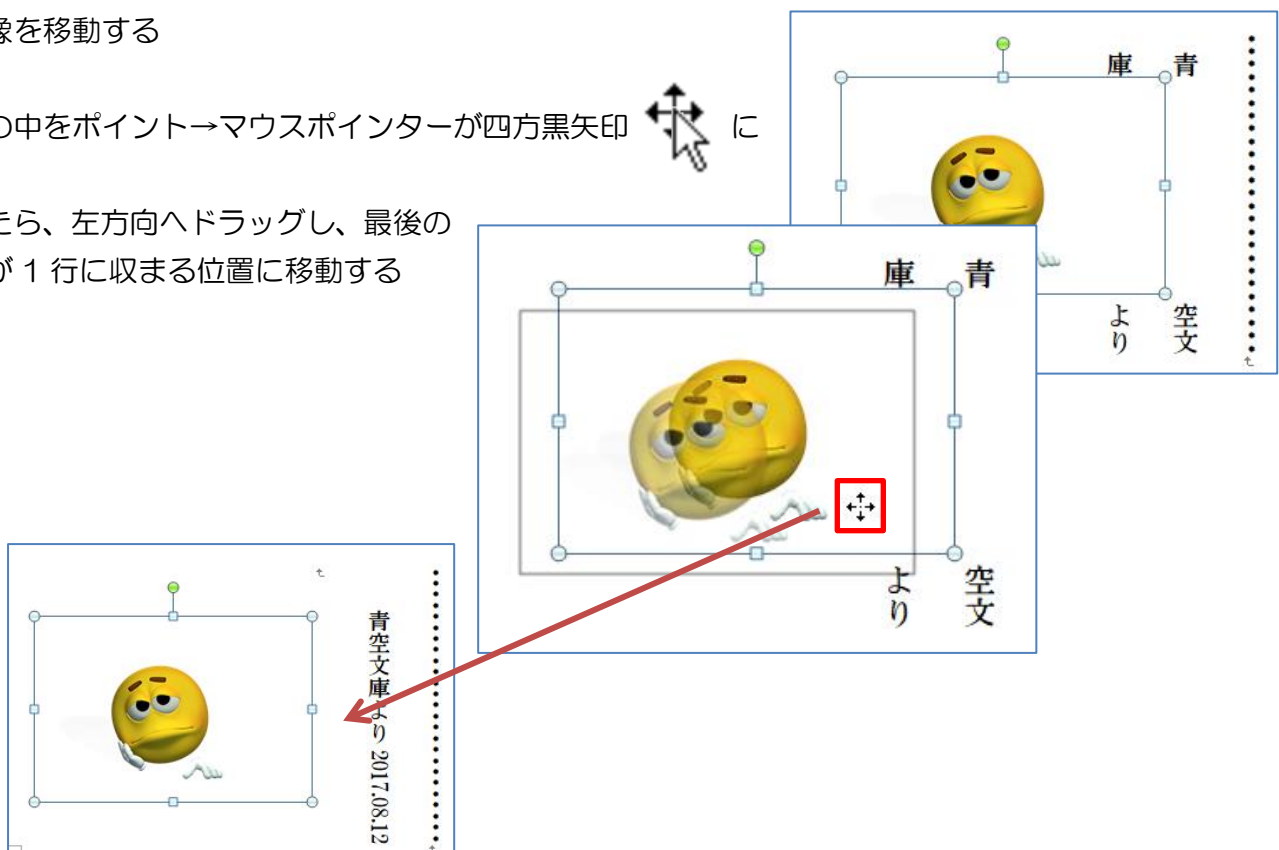
※画像の周りが四角で囲まれている。囲まれていない場合、画像自体をクリックする

→ “図ツール” の「書式」タブをクリック → 「文字列の折り返し」をクリック → 「四角」をクリック

#### ⑥画像を移動する

画像の中をポイント → マウスポインターが四方黒矢印  に

なったら、左方向へドラッグし、最後の文字が1行に収まる位置に移動する





寺田寅彦

る「坊ちゃん」「赤シャツ」  
「のだ」「狸」「山あらし」を  
気任せに取出して紙面の舞  
台で踊らせ歌わせる。見物人  
の読者はそれを見て各自の  
中に居る「坊ちゃん」「赤シ  
ヤツ」エトセトフを共鳴させ  
る。

一  
一七  
当らずさわらずの事を書  
こうとするとなかなか六か  
しい。

真理は普遍だから、少しで  
も真理に近いことを書けば、  
すべての人があてられ、痛い  
所をさわられる。優れた小説  
を読むとすべての人が自分  
をモデルにしたのではない  
かと思う。己がモデルだと自  
称する人が幾人も出て来た  
りする。

気楽なたちの人はそのう  
ちで自分に都合のいい気持  
のいいだけを自由に振動  
させ、都合のわるいのはそつ  
とダンブしておく。あるいは  
自分の嫌いな人にそれをプ  
ロジェクトして一種の満足  
を享樂する。少し苦勞的な素  
質の人だと自分の中の悪い  
方をより強く共鳴させて  
痛みを感じる。それが少しべ  
ルヴェエースな性質の人にな  
ると、わざわざその痛みを増  
大させる事に愉快を感じる。

い相談でもあり、それではあ  
まりに世の中が淋しくなる  
のかもしれない。

二七  
新しい学説が学界から喜  
んで迎えられるならば、それ  
はその説がその当代の学界  
の痛切な要求にうまく適合  
するからであることは明ら  
かである。

もう十年も前から世界中  
の学者が口をもぐもぐさせ  
て云おうとしていたが、適当  
な言葉が出て来ないので困  
っていたところへ、誰かが出  
て来て、はっきりした言葉で  
それをすばりと云って退け  
れば、世界中の学者は一度に  
溜飲が下がったような気が  
するであろう。

もしわれわれが自分の中  
のすべての「人形」すべての  
「共鳴器」をありのままに認  
識する事が出来れば幸福だ  
ろうと思うが、それは出来な  
い。

理学部会委員に約束して  
おいたのを忘れていて、今日  
最後の通牒を受けて驚いて  
大急ぎで書いたので甚だ妙  
なものになった。

スパークのようなトラン  
ジエントな現象である。

賢明なる読者の寛容を祈  
る。

（昭和三年九月『理学部会  
誌』）

青空文庫より 2017.08.12

